

JAFIA 創立 25 周年を迎えて

JAFIA 委員長 酒井忠雄 (愛知工業大学)



1984 年に石橋信彦教授 (九州大学工) がフローインジェクション研究会を立ち上げられ、それと同時に機関誌 Journal of Flow Injection Analysis が発刊された。FIA に関する研究組織と原著論文を含む機関誌の発行は世界でも類をみない。これは創立に関わられた多くの先輩教授・研究者たちの FIA への深い思い入れによるところが大きいと感謝している。創立時の会員は約 200 名であり、現在も外国会員・賛助会員等を含め、約 350 名とさほど会員数の増大はないが、International Conference for Flow Injection Analysis(Chair, Prof. Gary D. Christian)の JAFIA との共同開催は 1995 年より継続され、また 2002 年に始まったタイとの合同シンポジウムは我々の大きな活力源となっている。また JFIA には世界的リーダーの Foreword 及び英文原著論文が毎回掲載されており、国際誌として認知されるに到っている。これまでの発展は石橋・大倉 (九州大薬)・本水 (岡山大理) 前委員長の多岐にわたる企画と実行力の成果と高く評価されている。特に JAFIA の学術性の高揚と国際活動は会員諸氏の日ごろの研鑽が大きく反映されていることを如実に表していると感じる。JAFIA 創立 25 年に併せ 15th ICFIA(ICFIA08)が初めて日本で開催されることになり、2008 年 9 月 28 日～10 月 3 日に愛知工業大学本山キャンパス及び名古屋ガーデンパレスで行われる。

FIA は迅速性・少試薬・少試料など「環境負荷低減型分析法」として研究室レベルでの手法の確立は完熟期に入っているが、Flow Injection Analysis, Sequential Injection Analysis, Bead Injection Analysis, Multisyringe Flow Injection Analysis と大きく「流れ分析法」の概念は変化し、また確実に進化している。最近では semi-automated analyzer からコンピュータ制御による fully automated analyzer の機能が付加され、環境化学、食品化学、工程管理、臨床科学、品質管理と多くの分野で重要視されている。また検出装置である FIA/SIA は新たなオンライン前処理機器として注目され AAS、ICP-AES、ICP-MS などに結合して用いられ、更なる機能の発展が期待されている。バルブ上にミニカラムを装着し、分離・濃縮をオンラインで行い、溶離液を AAS などの検出器に導入する方法であるが、この前処理機能の向上は AAS、ICP-AES、ICP-MS の機能をも向上させるもので、検出限界は ppt レベルに達している。

ICFIA08 は「安全と安心に貢献する新たな学術・技術発展の場」になることを切に願っているが、会員の皆さんの大いなる貢献により「楽しかった・よかった」と満足できる国際会議になれば最高の喜びであり、この喜びを皆さんと分かち合えれば幸いである。絶大なるご支援をお願いしたい。